

**製品名: Bcl10 ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe86954**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,FC,IP
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:50-1:100,ICC/IF 1:100-1:200,FC 1:100-1:200,IP 1:20-1:50
分子量	Calculated MW:26 kDa; Observed MW:26 kDa

**抗原情報**

遺伝子名	Bcl10
別名	CLAP; mE10; CIPER; IMD37; c-E10; CARMEN
遺伝子ID	8915
SwissProt ID	O95999
免疫原	ヒト Bcl10 の合成ペプチド

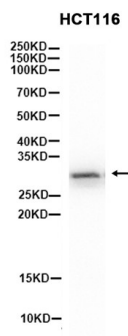
**背景**

この遺伝子は、粘膜関連リンパ組織（MALT）リンパ腫の症例における転座により同定されました。この遺伝子によってコードされる

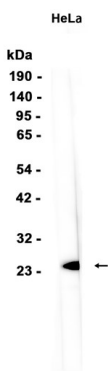
タンパク質はカスパーゼリクルートメントドメイン (CARD) を含み、アポトーシスを誘導し、NF- $\kappa$ B を活性化することが示されています。このタンパク質は、NF- $\kappa$ B シグナル伝達の上流調節因子として機能している CARD9、10、11、14 などの他の CARD ドメイン含有タンパク質と相互作用することが報告されています。このタンパク質は、MALT リンパ腫において転座することが知られている別の遺伝子によってコードされるタンパク質である MALT1 と複合体を形成することが分かっています。MALT1 とこのタンパク質は NF- $\kappa$ B の活性化において相乗作用を示すと考えられており、どちらか一方の制御不全が、悪性腫瘍につながる同じ病態形成過程に寄与する可能性があります。選択的スプライシングによって、複数の転写産物バリエーションが生じます。[RefSeq 提供、2016年3月]

## 研究分野

## 画像データ



Bcl10 ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用して HCT116 細胞抽出物をウェスタンブロット分析しました。



AMRe86954 を 1:1000 で使用して HeLa 細胞抽出物をウェスタンブロット分析しました。